



www.furuno.co.jp

 古野電気株式会社

〒662-8580 兵庫県西宮市芦原町9-52
TEL 0798-65-2111 (代表)
www.furuno.com



©このパンフレットに記載されている社名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標または商標です。
カタログNo. CA000002859

FURUNO Corporate Report 2026-2027

FURUNO

Corporate Report 2026-2027

会社案内

CHALLENGE the INVISIBLE.

見えないものを見るために。

FURUNOは創業以来、挑み続けてきました。
徹底して現場を見つめ、そこに見合う技術で問題を解決する。
世界初の魚群探知機の実用化も、この姿勢から生まれました。

FURUNOが提供するのは、
ただ可視化するための製品ではありません。

今まで見えなかったものが見えるようになると、
今まで見えなかった可能性が見えてくる。
それは、機器を使う人だけではなく、
その先にいる多くの人々の生活までも変えていく。

FURUNOはそこで暮らす人々の目線に立つことで、
そこにある課題を、今まで見えなかった可能性を見つけ出していく。

私たちはこれからも、人々の暮らしに寄り添いながら、
見えないものとの出会いを創り続けていきます。



TOP MESSAGE

社会課題の解決を通じて、持続的な成長を
実現してまいります。

フルノグループは、2030年に向けたグローバルビジョン「NAVI
NEXT 2030」を掲げています。このビジョンは、「事業ビジョン」と
「人財・企業風土ビジョン」で構成されており、事業ビジョンでは
「安全安心・快適、人と環境に優しい社会・航海の実現」を示してい
ます。また、人財・企業風土ビジョンでは、「VALUE through
GLOBALIZATION and SPEED」のもと、多様な人財がグローバル
な視点とスピード感をもって新たな価値を創造する企業集団への
変革を進めています。

私たちは「会社存立の原点は社会の役に立つことである」を経営理
念として、これまでも事業活動を通じて社会課題の解決に取り組
んでまいりました。

船用電子機器分野を起点に、社会に本当に必要とされるものを問
い続け、独自の技術で応えることで、今日では世界100か国以上に
わたり広く事業を展開しています。

フルノグループはこれからも、安全・安心の実現と人・環境への負
荷低減に貢献する製品・サービスを通じて、お客様に新たな価値
を提供してまいります。そして、お客様や社会からの信頼を高める
ことで企業としての成長につなげ、社会課題の解決と持続的な成
長の両立を図ることで、持続可能な社会の実現に貢献してまいり
ます。

代表取締役社長 古野幸男

CONTENTS

- 02 TOP MESSAGE
- 03 経営ビジョン
- 05 FURUNOの歩み
- 07 数字で見るフルノ2025
- 09 事業領域
 - 11 FURUNO 事業フィールドⅠ 船用事業
 - 15 FURUNO 事業フィールドⅡ 産業用事業
- 17 サステナビリティの推進
 - <環境保全への取り組み>
 - <コンプライアンス／リスクマネジメント>
 - <従業員への取り組み>
- 20 財務ハイライト・5年間の主要財務・非財務データ
- 21 社会とともに／主要拠点
- 22 グローバルネットワーク／会社情報

■ 編集方針

本会社案内は、ステークホルダーの皆さま
にフルノグループの事業内容と社会・環境
への取り組みを分かりやすくお伝えするこ
とを目的に編集しています。目指す姿、歩み、
事業領域、各種取り組みを中心に構成し、
フルノグループの全体像をコンパクトにま
とめました。

■ 対象期間

2025年3月1日～ 2026年2月28日
(一部2026年3月以降も含む)

■ 対象範囲

古野電気の活動を中心に、グループ会社の
活動を含んだ内容としています。

FURUNO GLOBAL VISION "NAVI NEXT 2030"

フルノグループは、2018年12月3日に創立70年を迎えました。これを機に2030年までの目指す姿を示す新たな経営ビジョン「FURUNO GLOBAL VISION "NAVI NEXT 2030"」を策定しました。



「NAVI NEXT 2030」では、2030年度の成長目標を連結売上高1,200億円、営業利益率10%と設定しましたが、2024年度に前倒して達成しました。そのため2026年度～2028年度の中期経営計画では、持続的な成長に向けて事業を進め、企業価値のさらなる向上を目指してまいります。

NAVI NEXT 2030

2020年度～2022年度

フェーズ 1

変える

事業の体質改善による資源の捻出・体力強化

2023年度～2025年度

フェーズ 2

つなぐ

技術と事業の柱・収益構造の構築に向けた行動

2026年度～2030年度

フェーズ 3

変わる

あるべき企業規模・収益性・事業構造を実現

中期経営計画(2026年度～2028年度)

市況変動に左右されない事業構造への変革を推進するとともに、持続的成長の実現に向け、人財をはじめとする経営資源への積極的な投資を進めてまいります。

目標とする経営指標(KPI)

以下のKPIを安定的に継続できる経営基盤を構築致します。

2028年度の目標

企業規模売上高

1,500億円

収益性営業利益率

10%以上

主な取り組み

企業規模の拡大

①主力市場(商船・漁船など)で支え、成長市場への投資で規模拡大
②世界100か国を超えるグローバルネットワークを活用した顧客対応力の強化

収益性の向上

①保守メンテナンス事業の更なるグローバル展開による収益性の確保
②モノづくりのスマート化、AI・デジタルを活用した業務再構築で生産性向上

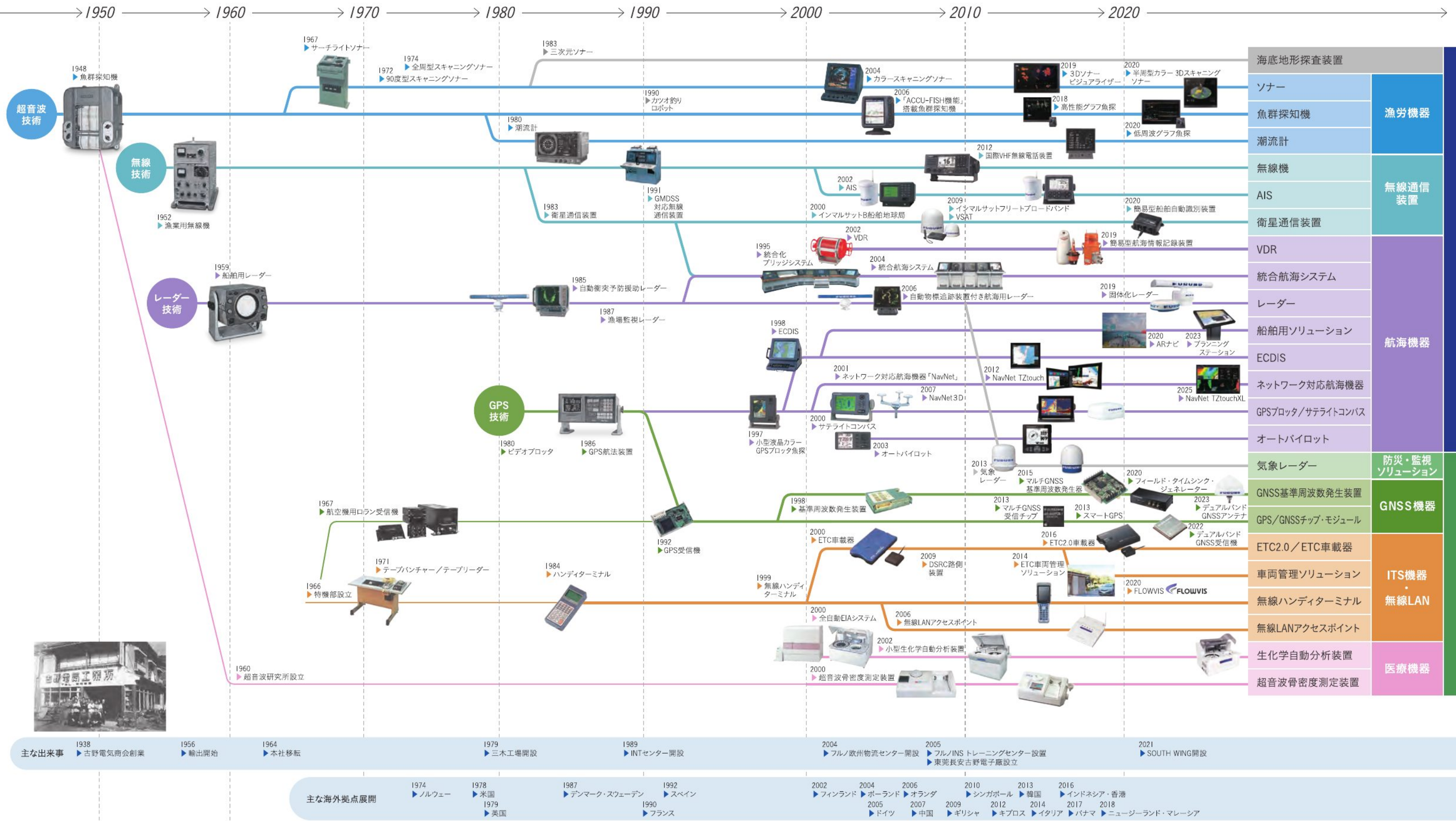
事業構造の変革

市況変動に左右されない事業構造への変革
・主力分野の高収益化と投資強化領域の拡大
・当社の持つ海外販売チャンネルの活用

03 FURUNO Corporate Report

FURUNO Corporate Report 04

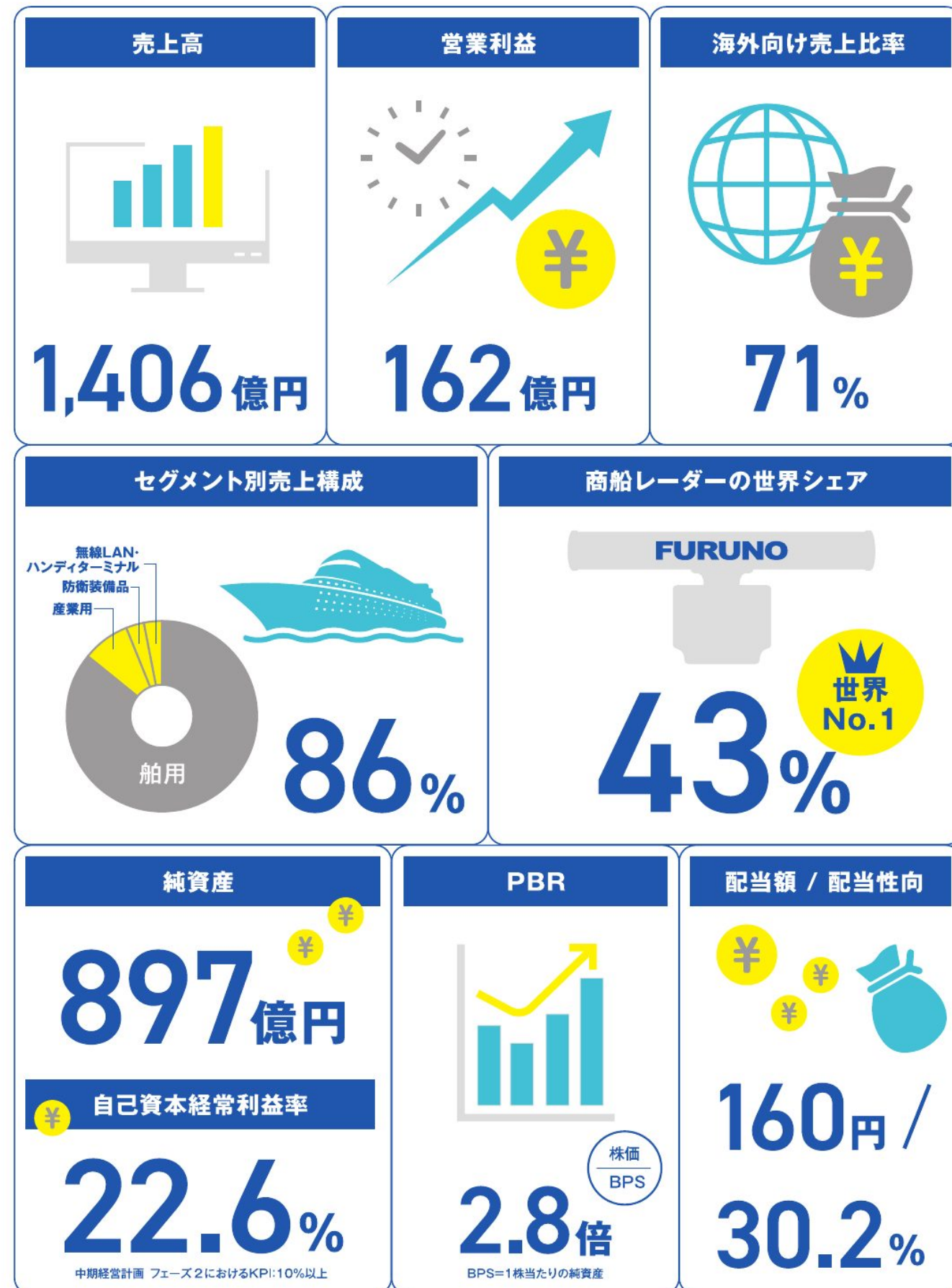
フルノは、SPCテクノロジーと、これまでに培ったノウハウを活かし、
見えないものを見えるようにすることで、社会や産業の発展に貢献していきます。



海底地形探査装置		
ソナー		
魚群探知機		漁業機器
潮流計		
無線機		
AIS		無線通信装置
衛星通信装置		
VDR		
統合航海システム		航海機器
レーダー		
船舶用ソリューション		
ECDIS		
ネットワーク対応航海機器		
GPSプロット/サテライトコンパス		
オートパイロット		
気象レーダー		防災・監視ソリューション
GNSS基準周波数発生装置		GNSS機器
GPS/GNSSチップ・モジュール		
ETC2.0/ETC車載器		ITS機器・無線LAN
車両管理ソリューション		
無線ハンディターミナル		
無線LANアクセスポイント		
生化学自動分析装置		医療機器
超音波骨密度測定装置		

数字で見るフルノ2025

財務データ



非財務データ



事業領域

FURUNOの製品・サービスは
「安全安心・快適、人と環境に優しい社会・航海の実現」を
事業ビジョンに、さまざまなフィールドで活躍しています。



安全・安心で快適な航海を フルノの製品が支えます。

船用電子機器を核とした海洋総合企業として、
創造と革新に満ちた事業活動を通じて、
海洋に関わる顧客の安全・安心な航海の実現と
海洋文化の発展に寄与しています。



商船向け事業

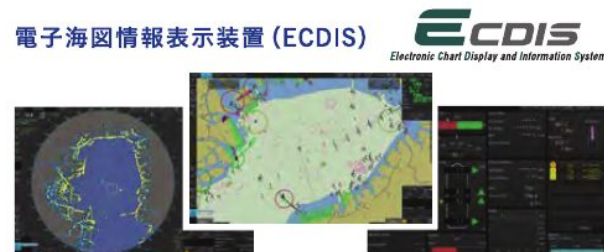


安全で効率的な航行のために

安全で効率的な航行への貢献を使命として、ヒト・モノを運ぶさまざまな商船に、各種航海機器・通信機器を提供。さらに、新造船向けのビジネスで築いたトップシェアの実績とグローバルネットワークを活かし、船舶の新船建造から保守、換装に至るライフサイクルの維持管理を支援する事業を展開しています。



電波を用いて周辺の船や障害物を検知します。自動で不要なエコーを取り除き、海況に応じた映像調整を行うなど、安全航海を支援する機能を搭載しています。フルノでは、耐久性とメンテナンス性に優れた半導体素子を採用したレーダーも取り揃えています。



ECDIS (電子海図情報表示システム) FMD-3200/FMD-3300は、画面上に電子海図、AIS、IMOレーダー等の情報ははじめ、船位、方位、船速などの航海情報を表示し、航路計画と航行監視において操船者を支援するシステムです。国際航海に従事する500トン以上の旅客船、および3000トン以上のタンカー・貨物船に対し、2012年7月から段階的にECDIS搭載が義務化されることを受け、フルノECDISは「使いやすさ」にこだわった仕様を採用しています。

TOPIC I 世界初となる自動運転レベル4相当での商用運航開始を支援

フルノは、日本財団が推進する無人運航船プロジェクト「MEGURI2040」※1 に参画し、定期内航コンテナ船「げんぶ」の自動運航実証において、世界初※2となる自動運転レベル4相当※3での商用運航開始に貢献しました。「げんぶ」は自動運航船として日本海事協会の認証を取得し、国土交通省の船舶検査にも合格。一般貨物を搭載した定期航路での運航を開始しています。

当社は、自動運航の中核となる避航操船支援システムや専用ブリッジコンソール、Smart Bridge Systemを搭載し、安全で効率的な運航を支援しています。周囲の船舶や障害物を踏まえた避航経路の提案、冗長構成による信頼性向上、直感的な操作環境の実現などを通じて、将来的な無人運航の社会実装を後押しします。

今後も当社は、船員不足や労務負担の軽減、海難事故防止といった海運業界の課題解決に貢献してまいります。



※1 無人運航船プロジェクトMEGURI2040…無人運航船の実用化を推進する技術開発を行うことで、本分野の技術開発へのさらなる機運を醸成し、その結果我が国の物流および経済・社会基盤の変革を促進するべく、当該技術開発を支援する助成制度。多種多様な国内53社でDesigning the Future of Fully Autonomous Ships Plus(以下、DFFAS+)コンソーシアムを構成し無人運航船の技術開発に取り組んでいます。

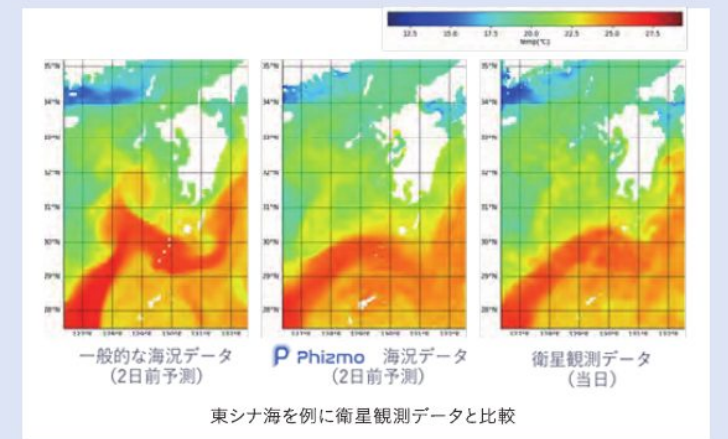
※2 世界初…定期貨物航路において、自動運転レベル4相当となる“定常的な実用運航”を開始する事例として世界初。

※3 自動運転レベル4相当…完全自動運航が一部可能な技術段階で、特定エリアや条件下で人の介入不要の完全自動運転のことを指します(船舶の自動運転定義は現在IMO等で議論中、便宜的に自動車の定義を流用)。

TOPIC II GI学会で海況予測システム「Phizmo」の技術を発表

過去・未来の海の変化を高精度に予測

フルノは、2026年5月に熊本県人吉市で開催されたGI(グリーンインフラ)学会第1回学術大会※において、海況予測システム「Phizmo(フィズモ)」に関する技術発表を行いました。発表では、気象・海況データや衛星観測データなどを活用し、水温、流速、塩分、海面高度といった海洋環境を3次元で再現・予測する技術を紹介。高解像度なデータ生成により、黒潮や親潮などの大規模な流れに加え、分岐流や渦といった詳細な海洋現象の把握にも貢献できることを示しました。沿岸域では、気象や潮流の変化が環境保全や産業活動に大きく影響するため、将来を見通す情報の重要性が高まっています。フルノは、海の状態を可視化する技術をさらに進化させ、持続可能な海洋利用とグリーンインフラの発展を支える情報提供に取り組んでいます。



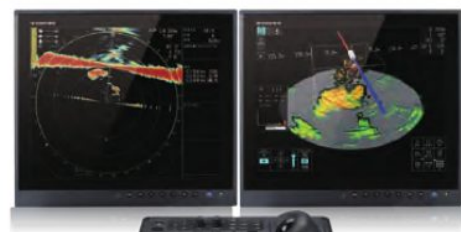
※グリーンインフラ(GI)とGI学会…グリーンインフラとは、自然の多様な機能を活用した社会資本であり、将来にわたり持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくり及びウェルビーイング向上に貢献するものであり、GI学会はGIの推進・発展に向けて既存の学術の垣根を越え(超学際的)、多様な視点からの知見を融合させることを目指した学術団体です。

漁業向け事業



安全操業と水産資源の持続的な利用のために

創業以来、漁業の近代化や効率操業を支える漁労機器を提供してきました。これまで世界各国で培ってきた漁業コンサルティング力と革新的かつ市場に最適な製品・サービスの提供を通じて、資源管理型漁業の発展に貢献する事業を展開しています。



(型式：FSV-75-3D)

半周型カラー 3Dスキャニングソナー

独自の180度扇型探知ビームで、自船周辺の海面から海底までを探知します。3D表示機能を備えており、海底や魚群までの距離、また漁場の状況を正確に把握でき、効率的な操業に貢献します。



(型式：FCV-38)

低周波グラフ魚探

魚体長・魚量計測可能な魚群探知機で、漁場管理のための情報収集や海洋資源調査に貢献します。独自のビームスタビライザー機能により、船の揺れに左右されことなく安定して魚群・海底情報を得られます。

船舶向けデータ収集システム

魚探やソナー映像はもちろん、潮流、水温、船の位置情報などの操業データを僚船間で共有することができます。漁具投入や最適な漁場を判断する際に、僚船内で同じ情報を確認することで高効率な操業に繋がります。魚探や潮流情報などの操業データは随時クラウドに保管します。

ワークポート向け事業



海上業務の安全安心のために

官公庁船や港湾海洋・作業船などのユーザーに革新的かつ信頼性の高い製品を継続的に提供しながら、顧客の安全安心・快適に貢献する事業を提供しています。

官公庁をはじめ、これからの市場もフルノはサポート

海上における取締りや海難救助等を担う海上保安庁の巡視船艇や、港湾での監督および調査等の業務を担う港湾業務艇、将来の船員を育成する各教育機関の実習船や練習船など、多くの官公庁船にもFURUNO製品を採用いただいています。さらに、これから拡大する洋上風力発電市場で活躍する作業船やCTV(洋上風力発電設備向け作業員輸送船)の安全航海もFURUNOは強力にサポートしてまいります。



出典：海上保安庁ホームページ (<https://www.kaiho.mlit.go.jp/soubi-yosan/sentei/ship.html>)

プレジャーボート向け事業



安心で快適なボートイングのために

スポーツフィッシングボートやセーリングヨット、クルーザーなどプレジャーボートのユーザーに高品質な製品を、沿岸警備艇やタグボートなど小型ワークボートのユーザーに革新的かつ信頼性の高い製品を継続的に供給しながら、顧客価値の向上を追求する事業を展開しています。

NAVnet



(型式：TZT10X / TZT13X / TZT16X / TZT22X / TZT24X)

マルチファンクションディスプレイ

航海に求められるものすべてを集約した装置です。誰もが簡単に操作できるよう、指先一つで直感的な操作を実現したタッチスクリーン機能を搭載しており、思いのままにプロッタやレーダー画面の操作が行えます。



(型式：DRS12A-NXT / DRS25A-NXT)

レーダーセンサー

固体化素子(半導体)を採用したレーダーセンサー。自船周辺の船に加え、海鳥や雨雲の動向まで探知することができます。さらに、自船に接近する物標のみを色分けして表示する機能を備えていて、安全航海を支援します。



(型式：DFF-3D)

ネットワーク マルチビームソナー

NavNet TZtouchXLに接続することで、魚群の位置関係や海底の詳細な地形構造を3Dでマッピングします。フィッシングチャートにも載っていない地形を見つけ、自分だけが知るポイントを記録できるなどの付加価値を提供します。

保守サービス向け事業

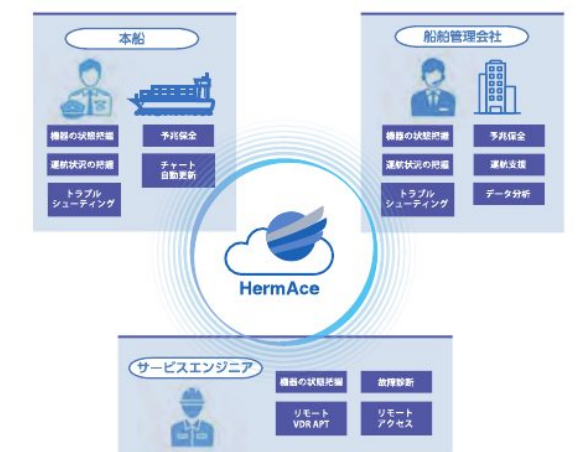


製品がお客さまのお役に立つことを保証するために

グローバルにまたがるサービスネットワークを活かし、世界最高水準の技術サービスと法定検査を適時・的確に提供し、いつでも製品が最高のパフォーマンスを発揮、維持できる事業を展開しています。

サイバーセキュリティ & リモートモニタリングプラットフォーム「HermAce」

» 本船、管理会社、エンジニアをつなぐ、リアルタイムのトラブルシューティング



フルノの航海機器や通信機器のデータをリアルタイムに収集・配信・通知・監視できるため、陸上から運航中の船舶を迅速にサポートすることが可能です。メーカーならではの豊富な経験と技術的な知見をデジタル化したサービスナレッジを具備しており、詳細で適切なトラブルシューティングを提供するためアラート発生時にはお客様自ら迅速に初期対応を行うことができます。また、HermAceはお客様のニーズに応じて、航海機器情報の配信やENCチャートの自動更新、遠隔でのソフトウェアアップデート、さらにはVDR年次検査の期間短縮にも貢献します。

ITS・GNSS事業



安全で利便性の高い社会の実現のために

社会インフラや車両交通などで求められる「Positioning・Navigation・Timing」（位置測位・運行支援・時刻同期）に不可欠な商品・サービスを提供しています。「人・モノ・モビリティ」の位置と時間に、創造価値を加えることでグローバルにインフラと都市を支えています。

時刻同期

地上デジタル放送や5Gモバイル基地局・消防や警察などの業務用無線・電力・証券取引所等では、ナノ秒～マイクロ秒オーダーの時刻精度で設備が制御・運用されています。衛星からの信号を用いて、原子時計並みの時刻情報を提供するのが時刻同期用GNSS受信機の役割。24時間365日停止することが許されないこれらの重要インフラの運営・維持にフルノの高精度な時刻同期技術が貢献しています。



地上デジタルテレビ放送送信所

車両管理ソリューション FLOWVIS



車両入退管理サービス

高速道路のETCレーンと同様の仕組みを使い、車両（ETC車載器）を「確実に」検知・識別、車番認証でETC非搭載車にも対応した車両入退システムです。事業所や物流拠点のセキュリティを向上させ、自動受付で省力・省人化を実現します。ゲートや電光掲示板、パス予約システム等との連携といった拡張性を備え、物流デジタルトランスフォーメーションに貢献しています。



ヘルスケア事業



(型式: CA-800)

(型式: CA-400)

(型式: CA-310)

生化学分析装置のラインアップ

健やかな暮らしを支えるために

舶用分野で培ったセンシング技術により、病気の早期発見、治療のモニタリングを目的とした装置やサービスを提供しています。医療現場に寄り添った早期診断ソリューションを創造し、人々の健康と福祉の向上に貢献する事業を展開しています。

生化学分析装置・試薬

生化学自動分析装置はさまざまな試薬との組み合わせで、血液や尿などの検体に含まれる成分を測定する装置です。健康診断で測定される血糖、中性脂肪、尿酸、γ-GTPなどのなじみの深い項目から、腫瘍マーカーなどの微量成分まで幅広い項目を測定することで、病気の診断や治療の経過観察だけでなく、早期発見や予防にも貢献します。

フルノでは小型から中型の分析装置を開発・製造・販売しており、医療機関での導入負担を軽減するとともに、質の高い医療の提供を支援しています。



東南アジアにおける学術活動

また、東南アジアにおいては、高品質・高性能の装置、試薬を最適化した上で提供しています。医療現場に寄り添って装置と試薬両面での現地サービスや学術活動を行い、医療環境の向上に貢献しています。



生化学分析装置の設置の様子



無線LAN・ハンディターミナル事業



さらに快適で安全な社会のために

無線技術を活かし、ネット接続の利便性を高める無線LANアクセスポイントや無線ネットワーク管理システムを提供しています。また、新たに利用可能になった無線規格のIEEE802.11ahを活用して、社会インフラで活用できる、IoT分野の通信システムとして展開していきます。

無線LANアクセスポイント

高砂市教育委員会では、児童生徒向けの一人一台学習用端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する国の政策「GIGAスクール構想」に基づき、2020（令和2）年度にLTEをネットワーク基盤とする教育ICT整備に着手しました。しかし、オンラインを活用した授業の推進といった背景や、それに伴う通信環境の課題を考慮し、2022年度にWi-Fiを基盤とするネットワークの整備に着手。2023年度には市内の小学校6校、中学校10校全ての普通教室と特別教室に無線LANアクセスポイントの設置が完了しました。

児童生徒が一人一台所持する学習用端末を使用した授業での円滑な進行を支える通信インフラとして、Wi-Fi6準拠の無線LANアクセスポイントを導入しネットワークを構築しました。安定したネットワーク環境のもとでICTを活用した授業を積極的に展開し、子どもたちの学習意欲の向上と主体的な学びの促進を実現しています。



IoTゲートウェイ対応11ahアクセスポイント

IEEE802.11ah対応のアクセスポイントは、920MHz帯の電波を使うことで半径約1kmの長距離通信が可能となります。この利点を活かし、農園や漁場、工場、自治体の河川見守りなどでの実証実験が進んでおり、社会インフラを支える役割が期待されています。



防衛装備品事業



国民の安全・安心のために

舶用電子機器のコアテクノロジーであるセンサー技術・信号処理技術・情報通信技術を駆使し、防衛省向け水中音響機器・GNSS関連機器・デジタルマップ装置等の研究開発に努め、国民の安全安心につながる商品・サービスを提供しています。

写真出典：厚木航空基地ホームページ
https://www.mod.go.jp/msdf/atsugi/gallery/index_r2.html

水中音響関連技術

水中音響技術をベースに、独自の技術開発を進めてきました。現在は、無人水上艇（USV）あるいは無人潜水艇（UUV）搭載を視野に入れ、いち早く機種の低消費電力化、小型軽量化および送受波器の高耐圧化に対する検討に着手し、それらの技術取得に成功したのから順次製品への展開を図っています。



マルチビームソナー測深機

GNSS関連技術

GNSSの有用性にいち早く着目し、独自技術で、航法・測量・姿勢検出・時刻基準等の様々なGNSS利用分野の研究開発を手掛け商品化を進めて参りました。防衛省にも艦船/航空機用をはじめ各種GNSS関連機器をご採用いただいております。



GPS航法装置



サステナビリティの推進

環境保全への取り組み

FURUNOは環境への配慮を重要な経営課題の一つと認識し、「地球環境の保全」「循環型社会の形成」「生物多様性の維持」の3つを重要な軸として、環境負荷の少ない製品づくりを進めるとともに、事業活動における環境負荷の低減に取り組むことで、持続可能な社会の実現を目指しています。



地球環境の保全に向けて

当社環境方針に基づき、環境保全に取り組むとともに省エネ法*に対応し、2010 年からは中長期的に前年度比1% 減を目標に、CO2 排出の削減に取り組んできましたが、気候変動への対応が急務となった情勢に対応すべく、2024 年度からは、「フルノカーボンニュートラルプログラム」と題して取り組みを進めています。フルノカーボンニュートラルプログラムにおける目標は、2050 年カーボンニュートラルを目指し、

- Scope1、Scope2については、2030 年度、50% 削減(2013 年度比) の達成に向けて取り組む。
- Scope3については、サプライチェーンにおける他社と協力し、自社内でも可能な削減を継続する。

としています。

*エネルギーの使用の合理化等に関する法律

循環型社会の形成に向けて

当社では、循環型社会の実現についての具体的施策として、動脈側では環境配慮設計を、静脈側では 3R を中心とした事業所運用を進めてきましたが、世界的に対応が進んできているサーキュラーエコノミーに関する規制への整合を進めていく必要があると考えています。この取り組みを進めていくことは、地球環境の保全に向けた「フルノカーボンニュートラルプログラム」の活動にもつながるものと期待しており、2025 年度からはこれを推進していくこととしています。

生物多様性の維持に向けて

生物多様性の維持に有効なさまざまな環境配慮活動のうち、製品自体やその生産工程からの有害物質の排除と、お客さまがFURUNOの製品を使用いただくことを通じた水産資源管理への貢献が重要であると考えています。

また、サプライチェーンからの情報収集を含めた適切な化学物質管理を進め、関連規制を順守するための取り組みを重ねています。

TOPIC 環境配慮製品について

設計プロセスの中で環境基準を設け、国内外の環境法規制に対応しながら、省資源化や省エネルギー化などの具体的な数値目標を設定し、目標達成に向けた開発を継続的に取り組んでいます。

環境配慮設計



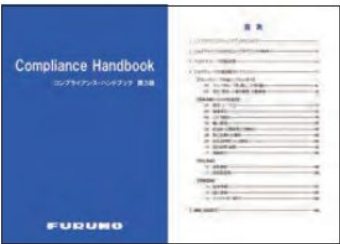
コンプライアンス

社長を委員長とし、外部委員（弁護士）を含めた「コンプライアンス委員会」を設置。「FURUNOグループ行動規範」を倫理基準として、継続的に法令、企業倫理、社会規範などを遵守する風土の浸透・定着を図っています。

コンプライアンス教育・啓発

コンプライアンス意識の向上を図るため、階層別研修、テーマ別研修、eラーニング等によるさまざまなコンプライアンス教育を実施しています。また、すべての従業員に「コンプライアンス・ハンドブック」を配布し、フルノグループ行動規範およびガイドラインを確認・参照できるようにしています。なお、「コンプライアンス・ハンドブック」については、英語版・中国語版も制作し、海外拠点の従業員にも提供しています。さらに、毎年10月をFURUNOグループにおける「コンプライアンス推進強化月間」と定め、社長メッセージの配信、啓発ポスターの掲示、「コンプライアンス・ハンドブック」の音読放送を実施しています。このほか、国内・海外の従業員に向けて、それぞ

れコンプライアンスに関するトピック・情報を定期的に配信したり、各職場において従業員がコンプライアンスについて自由に意見を交換できる「職場勉強会」の機会を設定するなどして、常にコンプライアンス意識の喚起に努めています。



コンプライアンス・ハンドブック

リスクマネジメント

当社グループの経営に重大な影響を与えるリスクに対して、子会社を含めた当社グループ全体におけるリスクを洗い出し、その低減を図るとともに、緊急事態が発生した場合に被害を最小限に抑える体制を整備・維持しています。

また各リスクを適切に管理するため、社長を委員長とする「リスク管理委員会」を設け、講じている対応策の効果も踏まえ、リスクが顕在化する可能性と業績に与える影響度を整理し、全社的リスクの評価や重要性の判断、各リスク対策の主管部門および各対策分科会を定め、リスク低減に努めています。

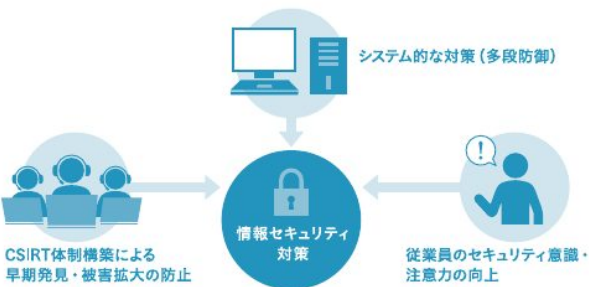
安全保障貿易管理

当社では社長を最高責任者とした輸出管理体制を構築しています。国際情勢に沿って変化する我が国や米国、欧州等の輸出規制や制裁措置の動向を常時確認し、商品やソフトが規制に当たるかどうかの「該非判定」や取引の合法性・妥当性を審査する「取引審査」を、監督官庁との緊密な連携のもとに実施することで、我が国の安全保障ならびに国際的な平和と安全に寄与します。

社内においては、経済安全保障輸出管理の重要性を理解・浸透させるために、社内通知や e ラーニング教育を実施するほか、自主管理の状況を検証するため内部監査を毎年行い、体制の維持管理に努めています。さらに、当社輸出管理の方針を、内外子会社・販売会社・主要代理店へも伝達し、グローバルにリスク管理を進めています。

情報セキュリティ対策

常に進化するサイバー攻撃に対しては、ゼロトラスト環境を構築（EPP、EDR、XDRなど）し、万全を期しておりますが、それでもシステムの対策だけでは完全に防御することが難しいため、eラーニングや社内での教育により、従業員のセキュリティ意識・注意力の向上を図っています。また、インシデント発生時や早期警戒対応には、CSIRT（シーサート：セキュリティ対策専門チーム）により、継続的な監視・情報収集、インシデント対応を行い、被害拡大防止・早期鎮静化を図っています。



従業員への取り組み

人財戦略

FURUNOは『高い目標を掲げ、社会への貢献と幸福のためにグローバル視点で価値共創に挑戦する人財』を育てることを目指しています。

人財育成 ―自律的に学び、挑戦する人財を育てる―

FURUNOは、自ら主体的に考え行動する「自律型人財」の育成を目指しています。職場でのOJT（職場内教育）を基本としつつ、Off-JT（集合研修など）や、eラーニング、通信教育費補助など多様な学びの機会を整えています。これにより従業員一人ひとりのキャリア開発・マネジメント能力の向上に取り組んでいます。

また、職場活性化や新たなチャレンジを通じて事業の成長を支える人財を育成するために、職種ごとのキャリアパスに応じたジョブローテーションを推進しています。

さらに、海外売上比率が7割を超える当社では、グローバルな人財の育成にも努めています。若手社員向けの「海外インターンシップ制度」を通じて、海外での実務経験や挑戦の機会を提供し、全社的なグローバル風土の醸成を進めています。



ダイバーシティ&インクルージョン（D&I）―多様な人財が活躍できる職場づくり―

FURUNOではサステナブル経営実現に向けて「ダイバーシティ&インクルージョンの推進」を掲げています。多様な人財を確保し、一人ひとりが成長・活躍できる環境づくりを進めています。社長直轄プロジェクトを起点に、専任組織としてD&I推進課を設置し、各種施策を企画・展開しています。

D&Iの理解促進に向けて、役職や世代を越えた対話型プログラムや管理職向け研修を実施しています。また、キャリア相談窓口や女性社員向け育成プログラムなどを通じて、多様な人財の育成を支援しています。



	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
女性社員の割合	28.8%	28.6%	28.9%	28.8%
平均継続勤務年数(女性)	13.9年	14.6年	15.0年	14.9年
新卒採用における女性比率	13.2%	15.2%	28.1%	30.0%
管理職に占める女性の割合	4.4%	4.2%	7.0%	6.1%

※FURUNO単体

健康経営―心身ともに健やかに働ける環境づくり―

FURUNOは社員一人ひとりが心身ともに健康で、イキイキと働き続けられる職場環境を目指しています。このため、「FURUNO健康宣言」を制定し、健康経営戦略マップの活用を通じて健康管理体制の強化や健康意識の向上、食事支援、運動支援、禁煙支援、心の健康支援、疾病予防支援など健康施策の拡充に努めてきました。この結果、「健康経営優良法人（ホワイト500）」に8年連続で認定されると共に、従業員の健康管理を経営的な視点で考え実践する企業のみが選ばれる「健康経営銘柄2026」にも選出されました（全国で44社）。



今後も健康経営を通じて更なる組織の活性化と生産性向上、ウェルビーイングの実現を目指します。

また、FURUNOはスポーツエールカンパニー（シルバー）や食育実践優良法人2026に認定されており、スポーツや良好な食生活を通じた従業員の心と身体の健康増進を引き続き推進していきます。



年次有給休暇の取得状況				
	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
取得率	83.6%	83.3%	83.5%	88.5%
従業員1人あたり残業時間※				
	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
月平均残業時間	16.0時間	15.1時間	14.5時間	15.1時間

※FURUNO単体（一般社員、定時社員、嘱託社員、臨時従業員が対象）

Financial Highlights

古野電気株式会社および連結子会社

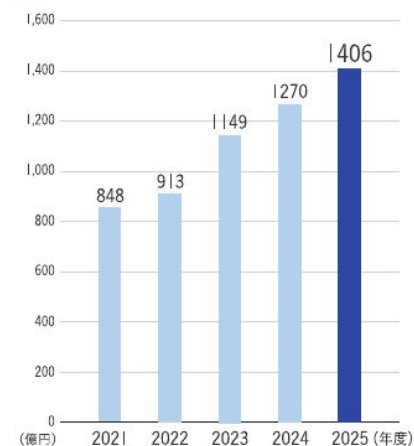
2月末日に終了した会計年度

財務ハイライト・5年間の主要財務・非財務データ

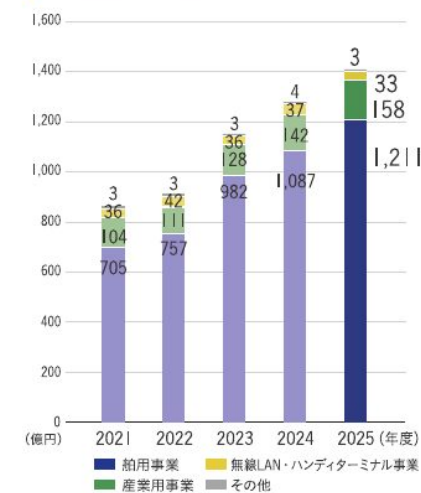
損益状況（百万円）	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
売上高	84,783	91,325	114,850	126,953	140,616
営業利益	2,532	1,523	6,519	13,181	16,246
経常利益	3,717	2,593	8,169	14,158	18,291
親会社株主に帰属する当期純利益	2,814	1,348	6,238	11,457	16,735
財政状態（百万円）					
総資産※4	85,973	106,396	114,370	123,519	141,364
有利子負債※1	9,602	19,317	17,417	17,808	11,903
純資産	47,880	52,503	61,434	72,619	89,772
キャッシュ・フロー状況（百万円）					
営業活動により増加したキャッシュ(純額)	6,193	△6,492	2,713	10,820	21,373
投資活動により減少したキャッシュ(純額)	△4,389	△3,027	△3,589	△4,588	△3,278
財務活動により増加(減少)したキャッシュ(純額)	△3,518	8,263	△3,557	△2,696	△11,439
1株当たり情報（円）					
当期純利益	89.2	42.7	197.6	362.6	529.5
配当金	40.0	25.0	60.0	110.0	160.0
純資産	1,518.0	1,651.0	1,932.3	2,284.5	2,826.6
主要財務指標（%）					
売上高営業利益率	3.0	1.7	5.7	10.4	11.6
自己資本利益率（ROE）※2	6.0	2.7	11.0	17.2	20.7
自己資本比率※3	55.7	49.0	53.4	58.4	63.2
研究開発・設備投資・減価償却（百万円）					
研究開発費	5,458	5,694	5,987	6,303	6,014
設備投資額	4,670	2,207	3,350	4,921	4,708
減価償却費	3,161	3,061	3,413	3,592	3,920
非財務データ					
連結従業員数（人）	3,065	3,310	3,356	3,368	3,411
単体従業員数（人）	1,765	1,794	1,927	1,927	1,954
単体女性社員の割合（%）	28.8	28.8	28.6	28.9	28.8
単体女性管理職の割合（%）	3.3	4.4	4.2	7.0	6.1
取締役数（うち社外取締役）	6(2)	6(2)	6(2)	7(3)	7(3)
監査役数（うち社外監査役）	3(2)	3(2)	3(2)	3(2)	3(2)
連結特許保有件数	1,302	1,313	1,302	1,207	1,280
主要拠点※4のCO2排出量（千t-CO2）※5	2.9	2.6	2.9	3.3	3.1
主要拠点※4の廃棄物総排出量（t）	336	313	322	361	372

※1 有利子負債＝短期借入金＋1年以内返済予定長期借入金＋長期借入金＋社債及び輸出手形割引高 ※2 自己資本利益率（ROE）＝当期純利益/自己資本（当・前期末の平均） ※3 自己資本比率＝自己資本/総資産 ※4 集計対象：本社（西宮事業所）、三木工場、INTセンター ※5 2021年度以降の数値を開電報告値に変更しました。

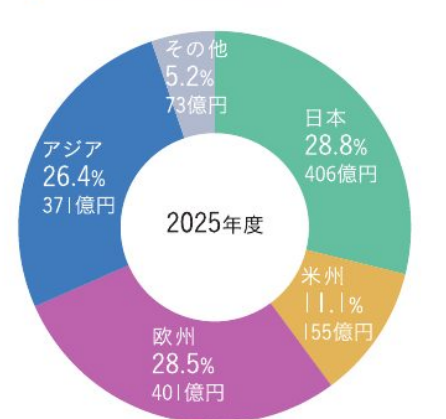
売上高



事業別売上高



地域別売上高構成比



社会とともに

地域とのかかわり

特設サイトをご覧ください





海を未来にプロジェクト

海に育てられた企業として
**海を未来に
つなげていく。**



海を好きになってもらう
海を守る
未来の海を創る

～活動の想い～

身近な海の魅力を伝えることで
好きになってもらう。
好きになったものは
守りたいと思う。
一人でも多くの行動を
後押しすることで
豊かな自然を守り、
海を未来につなげていきます。

当社は長きにわたり海に育てられた企業として、「FURUNO 海を未来にプロジェクト」と題し、啓発・技術の両面から「海を好きになってもらう活動」や「海を守ろうとする活動」を推進しています。

主要拠点

国内拠点



本社 (兵庫県西宮市)

フルノ発祥の地は長崎県になります。1961年に兵庫県西宮市に移転し、ここを本拠として70年以上にわたり事業を展開しています。



三木工場 (兵庫県三木市)

敷地面積67,000m²を有し、船舶用電子機器の生産工場としては、世界トップクラスの規模を誇る国内主力工場です。航海機器、漁業機器をはじめ、船舶用電子機器生産の約7割を担っています。



サウスウイング (SOUTH WING) (兵庫県西宮市)

本社南側にある研究開発拠点で、オープンかつフラットなレイアウトやエンジニアが没頭できるソロワークスペースなど、創発と共創を支える環境を整備しています。



フルノINTセンター (兵庫県西宮市)

陸上・産業用電子機器を取り扱う拠点として、商品企画から開発、製造、販売といった一連の活動をおこなう組織体制と、充実した研究開発設備を備えています。

海外拠点



FURUNO USA (アメリカ)

1978年サンフランシスコで設立、1998年にワシントン州カマスに移転し、北米および中南米・カリブ海域の販売拠点として活動しています。



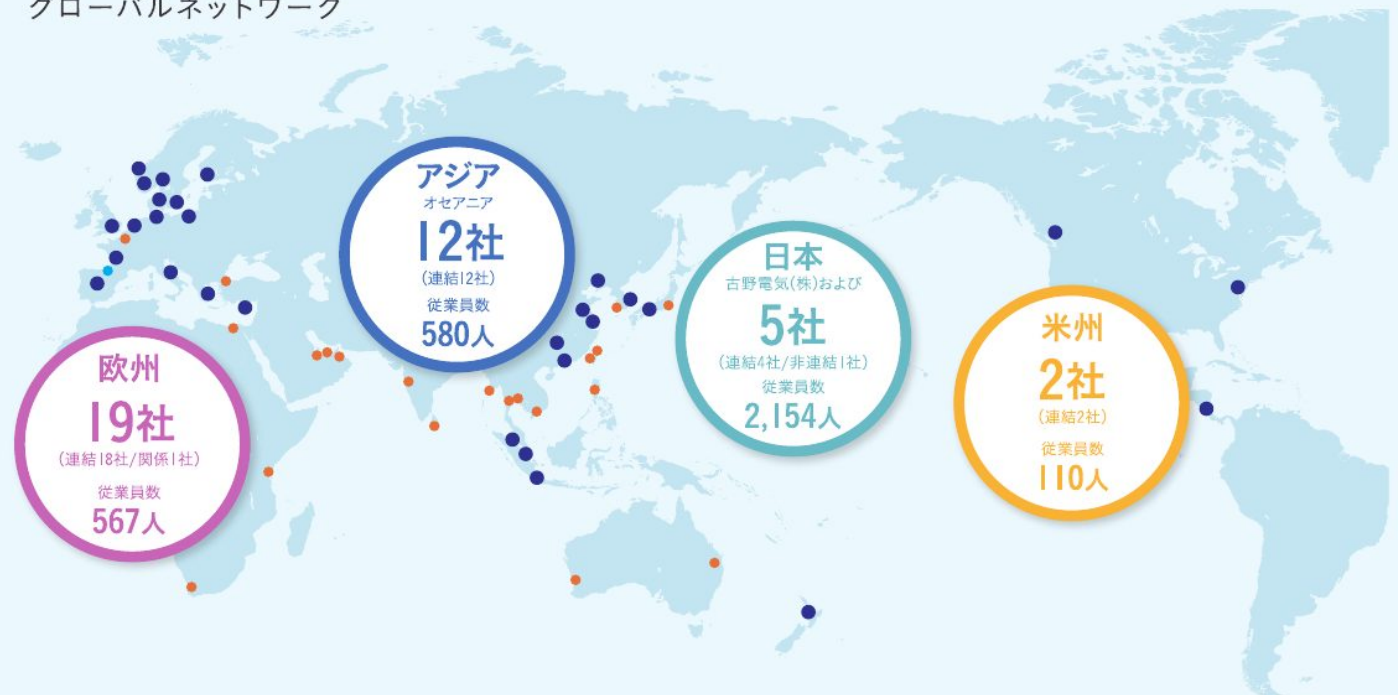
FURUNO NORGE A/S (ノルウェー)

初の海外子会社として1974年に設立。遠洋漁船や油ガス田の作業船等、各種船舶の活動を半世紀以上にわたりサポートしています。

Global Network

グローバルネットワーク

● 子会社・駐在員事務所 ● 関係会社 ● 主要代理店



欧州

FURUNO (UK) LTD.
FURUNO NORGE A/S
FURUNO DANMARK A/S
FURUNO SVERIGE AB
FURUNO FINLAND OY
FURUNO POLSKA Sp. z o.o.
FURUNO DEUTSCHLAND GmbH
FURUNO EUROPE B.V.
FURUNO FRANCE S.A.S.
FURUNO ESPAÑA S.A.
FURUNO ITALIA S.R.L.
FURUNO HELLAS S.A.
FURUNO (CYPRUS) LTD
EMRI A/S
TELKO A/S
Telko International AB
S.A.S. ROBIN MARINE
FURUNO LEASING LTD.

アジア／オセアニア

古野 (上海) 貿易有限公司 PT FURUNO ELECTRIC INDONESIA
古野 (大連) 科技有限公司 FURUNO KOREA CO., LTD.
孚諾科技 (大連) 有限公司 FURUNO SINGAPORE PTE LTD
古野香港有限公司 FURUNO ELECTRIC (MALAYSIA) SDN. BHD.
東莞古野電子有限公司 ELECTRONIC NAVIGATION LIMITED
古野中国有限公司
古野通信導航科技 (上海) 有限公司

日本

マリサット通信サービス株式会社
株式会社フルノシステムズ
フルノライフベスト株式会社
株式会社フルノソフテック
ラボテック・インターナショナル株式会社

米州

FURUNO U.S.A., INC.
FURUNO PANAMA, S.A.



Corporate Information

会社概要 (2026年2月28日現在)

社名	古野電気株式会社 FURUNO ELECTRIC CO., LTD.
本社所在地	〒662-8580 兵庫県西宮市芦原町9番52号 TEL 0798-65-2111 (代表)
設立年月日	1951年 (昭和26年) 5月23日
事業	船用電子機器および産業用電子機器 などの製造・販売
資本金	7,534百万円
従業員数	3,411名 (連結)
連結売上高	140,616百万円
上場取引所	東京証券取引所 プライム市場
ホームページ	https://www.furuno.com

役員 (2026年5月21日現在)

取 締 役				執 行 役 員			
代表取締役	社長執行役員	兼 CEO	古野 幸男	上席執行役員	古野 清志		
取 締 役	専務執行役員	兼 CMO	矮松 一磨	執 行 役 員	上村 貴典		
取 締 役	常務執行役員	兼 CFO	和田 豊	執 行 役 員	岡田 勉		
取 締 役	上席執行役員	兼 CTO	徳田 浩二	執 行 役 員	森 健一		
社外取締役			樋口 英雄	執 行 役 員	高木 淳		
社外取締役			香川 進吾	執 行 役 員	延廣 幸雄		
社外取締役			久保 雅子	執 行 役 員	原 裕一		
監 査 役							
常勤監査役			鮎谷 樹徳				
社外監査役			山田 昌吾				
社外監査役			猿木 秀和				
※CEO (Chief Executive Officer: 最高経営責任者)							
※CMO (Chief Marketing Officer: 最高マーケティング責任者)							
※CFO (Chief Financial Officer: 最高財務責任者)							
※CTO (Chief Technology Officer: 最高技術責任者)							